

中園廃棄物最終処分場におけるガス測定について

1 経緯

令和3年度第3回合同会議(令和4年2月,書面)

今後のガス測定は次のとおりとする。

- モニタリング管ではなくガス抜き管で行う。
- 測定器具は、熱線流速計で行う。
- 測定する管は、埋立ガス(二酸化炭素とメタンガス)流量が10ℓ/分を上回る14本と、流量は下回るがCH₄濃度が高い(約10%)2本の計16本とする。

<処分場廃止等の許認可を管轄する旭川市の環境指導課と協議を行った上で変更>

- 今後の地中温度測定は、前項で承認されたガス抜き管(16か所)で行う。
- これまでモニタリング管で行っていた埋立地内保有水の測定は、令和3年度で終了とする。

注:中園廃棄物最終処分場では、これまで5カ所のモニタリング管でガスの発生状況及び埋立地内温度を調査してきた。しかし、モニタリング管は埋立地内部を調査する意味で蓋をしておき、測定時に開放したが、時間とともにガスの発生状況が変化する問題があった。

2 調査結果

調査地点はP2に赤丸で示した16地点です。

(1) ガス発生量・濃度

調査地点の中でもD-1, A-29, A-37はメタン及び二酸化炭素のガス濃度が高く、発生量も多いです。

(2) 埋立地内温度

廃止基準では「埋立地の内部が周辺の地中の温度に比して異常な高温になっていないこと。」とあり、処分場周辺の地下水観測孔 No1 の温度を周辺の温度として、その温度から+20℃未満を評価の目安にしています。

調査地点A-25の2回目(8月)以外は、条件を満足しています。

3 おわりに

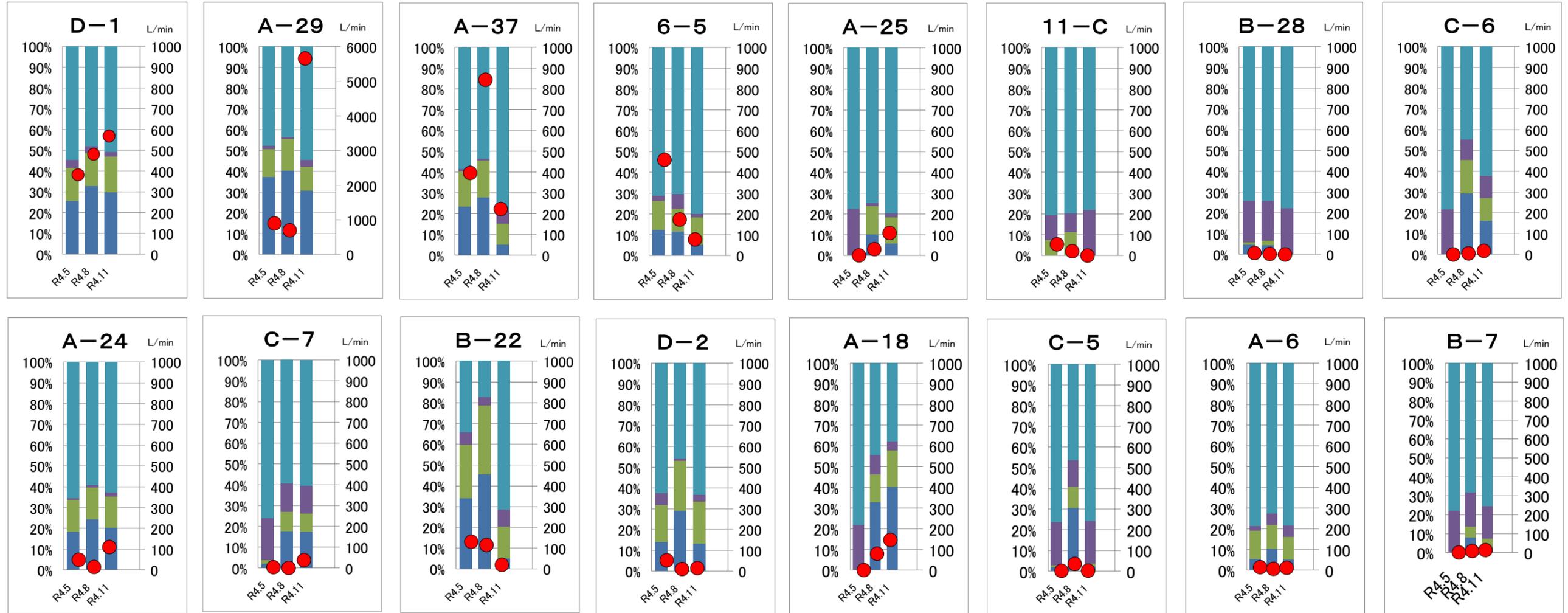
今後も処分場の廃止に向けて調査を継続し、結果を報告していこうと考えます。

令和4年度 調査地点位置図 (中園廃棄物最終処分場ガス抜き管)



中園廃棄物最終処分場の環境調査結果の推移

1 埋立地内発生ガスの推移



2 埋立地内温度の推移

